

随筆・近況

内外近況

渡辺 光

学部長稼業もあと3ヶ月となり、その間に夏休みも挟まれているので、少しホッとしているところです。講義の方は、一般教養の地理学を抜いて載せ、学部の方の卒論やゼミナールの指導もお若い先生方におまかせしているので、その点大助かりですが、学外の雑用の方は加わるばかりで閉口しております。

その方面のお目出度いニュースと致しましては、4月21日の日本学術会議48回総会で、かねてより日本の全地理学会の一致した要望として立案・提出されていた、総合地誌研究所設置についての政府に対する勧告案が満場一致を以って通過し、5月20日付で内閣総理大臣に送附されたことが挙げられます。この案は第一次計画としては、8講座、共通施設部、それに海外長期派遣研究部等より成り、113名の定員となります。その目的とするところは、地理学の中核でありながら、日本の地理学の最大の弱点である地誌の振興を計るにあります。地誌は世界につながる学問であるだけに、一大学の地理学教室の充実などを以ってしてはその目的を達することは困難であり、どうしても内容の充実した規模の大きい研究組織を持たなければならないためであります。日本で唯一のものであるだけに、この研究所は全国の研究者の共同利用に供せられなければなりません。この共同利用こそ、この研究所の最大の眼目であり、存在理由でもあります。まだどこにできるか、大学附置か、独立の研究所かは決まっていますが、全国の学者が共同に利用することができるような場所に、早急にできることを切望してやみません。

いま一つは、昨年は太平洋学術会議が日本で開かれたことでもあります。その際、地理は12の部門の一つに加えられ、各々のシンポジウム、部会等が開かれました。本大学からも、浅海、式、正井の諸先生、新しく来られた浅井先生等が、或はそれらの組織者として、または幹事として活躍されました。私も「土地分類Land Classification」の組織者Organizerとして、式先生の幹事としての協力の下に、会議に参加しました。また教室の馬場、林原、高田、野口、久保田、犬飼、栗原等の諸嬢も参加して、色々の方面で協力して下さいました。次の会議は5年後の1971年にオーストラリアで開かれますが、その間の期間、太平洋圏の地理学の振興を計り、連絡をとるために、常置委員会Standing committee が設けられました。私は計らずもその委員長

に指名されました。委員は日本、アメリカ、ソ連、ハワイ、カナダ、韓国、マライ、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、フランス、ドイツ等の諸国の地理学者17名より成り、本学の正井先生もその1人に加えられています。委員会の中心的なテーマは、太平洋圏の造山帯の地形学的諸問題、近代化のインパクトの地域性、地形分類と土地利用調査の基準の統一の問題、島嶼地理、太平洋圏のアトラス編纂の促進等になりそうです。

学内にも不完全講座の充実、文教育学部の新築、体育、音楽の大学院昇格等、色々の問題をかかえています。まあこの夏の概算提出までは責任がありますから、せいぜい頑張ります。

雑 感

松 井 勇

1. 研究について

旧制高校の理科には地理という科目がなかったことが、地理学を専攻するようになった直接の動機である。というのは丁度反抗期だったので高校で習った科目はすべて嫌いになった。そこで今まで習ったことがなく、入学試験のない学科ということで地理を選んだ。ところが東大の地理にはその年から入学試験があり、入試まぎわに非常にあわてた。当時テーマは教授から与えられ、学部で「分布現象」、大学院で「人文地理学の統計的研究」をした。人文地理から地理学に入ったが、主に農業地理を研究した。現在、那須扇状地を研究のフィールドにとり、最近「農業からみた那須野盆地の地域分化、戦後の変貌」を発表した。那須扇状地を選んだ理由は、食料事情の悪かった昭和22年頃、教鞭をとっていた自由学園の農場が那須野にあり、いろいろと便利なのでそこを根拠地として研究を行ったからである。地理学を研究して以来約40年間をふりかえてみると、旅行をするのが嫌いなので最近「我、誤ってこの道に入れり。」と思いはじめた。しかし別に後悔をしているわけではなく、たゞ自分に適した職業が別にあったのではないかとおもう。

2. 日常生活

毎朝5時起床、大学まで45分の道のりを歩いていく。午後6時帰宅、8時か9時就寝の規則正しい生活をおくる。趣味は学問研究であり、研究がうまくいき一段落ついた時や、十分な準備の後講義をする時が一番楽しい。自分が旅行するのはめんどうだが様々な自然景観人文景観をみることは非常に楽しみで、NHKの新日本紀行、特派員報告は欠かさずみている。

3. 女子大生、特にお茶大生について

学習面においては、まじめにノートを取りそれを覚えることは上手である。試験の答案などから見ると、論理的思考はまだ十分ではない。